

うるおい

第20号
2025年4月

50周年記念・特別号



新潟平野を見下ろす五頭連峰の麓
質の高い医療を提供すべく努力して50年が経ちました



当院は2024年11月に創立50周年を迎えました。
これを記念し「50周年誌」を制作しましたので、
一部ではありますが、『うるおい』でも
紹介したいと思います。
これを機に当院をより知っていただけたら幸いです。

創立50周年によせて ～これまでとこれから～



院長 近藤 浩

脳神経センター阿賀野病院は、令和6年11月に創立50周年を迎えました。これも皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。この50年の節目に、これまでの歩みを振り返り、今後の展望について書かせていただきたいと思います。

当院は、昭和49年11月1日、当時は未開の地であった五頭連峰の麓に、秩父政夫先生により個人立の阿賀野病院として開院し、120床で診療を開始しました。

その後昭和53年1月、秩父政夫先生を初代理事長として医療法人潤生会を設立し、昭和55年8月に近藤崇先生を副院長に迎えて、今日の礎が築られました。

そして平成9年4月、隣接して介護老人保健施設「阿賀の庄」を開設し、平成11年7月、病棟の増改築により一般病棟（第1病棟）42床、療養型病棟93床（第2病棟：43床、第3病棟：50床）に再編しました。

平成14年10月、秩父政夫先生の逝去という危機的事態に直面しましたが、近藤崇先生が急遽院長に就任し、平成15年5月、当時国立療養所新潟病院副院長であった石川厚先生が第二代理事長に就任して難局を乗り越え、新たなスタートを切りました。

平成16年4月、私が副院長として赴任し、第3病棟を特殊疾患療養病棟に転換して神経難病医療を中心とした当院の新たな取り組みが始まり、平成17年3月に第1病棟を44床に増床し、現在の137床の病院の体制となりました。

平成18年5月からは石川理事長が院長を兼任し、神経難病の専門病院としての施設整備と機能充実を図り、平成20年11月に脳神経センター阿賀野病院と改称しました。

そして、平成25年11月、私が第三代理事長となり、平成26年4月、石川先生の退職に伴って私が院長を引き継ぎました。

この間、平成18年9月に社会福祉法人阿賀野福祉会を設立し、平成19年9月に特別養護老人ホーム「あがの八雲苑」を開設しました。

また、当院と関わりが深かった相馬芳明先生のご逝去に伴い、新潟県庁前にあった相馬神経内科クリニックを潤生会が引き継いで県庁前神経内科クリニックを開設し、小林央先生により順調な運営がなされています。

私が院長となった後は、神経疾患専門病院として機能を充実させ、情報発信していくことを目標に掲げ、ホームページの充実や広報誌「うるおい」の発行、パンフレットの

作成、地域医療連携室の設置、短期リハビリ入院の受け入れなどを行ってきました。

そして、老朽化した施設の抜本的改修として、平成28年4月から第2病棟・給食棟の移転新築を行い、続いて第1病棟の増改築を行いました。コロナ禍での中断を挟んで、令和4年秋から管理棟の新築、外来・放射線科・検査科等の改修工事を順次進め、CT、MRIも最新機種に更新し、開院50周年を前にした令和6年7月に、一連の改修工事は無事竣工しました。

昭和の空気感が漂う狭くて暗い病院から、広くて明るい病院に多少なりとも脱皮できたものと思います。

この間に、人口減少と高齢化に伴う疾病構造の変化に対応して地域医療の見直しが求められ、平成30年8月より地域医療構想調整会議が開催されました。二次医療圏ごとに各病院の役割、病床機能、必要ベッド数の再検討が行われ、診療機能や病棟構成の変更、病床削減、療養病棟の介護医療院への転換などが進められました。

当院は、これまで同様に神経難病を中心とする神経疾患の専門病院としての役割を担い、人工呼吸器使用者など重症者も積極的に受け入れ、リハビリ入院やレスパイト入院を推進し、地域医療に貢献することで病院の独自性を打ち出して運営を続けています。

当院では、経験豊富な専門医により、神経疾患の初期診断から進行期の管理に至るまで、途切れのない医療を提供できているものと自負しています。

薬物治療のほか、リハビリテーション部門を充実させて、身体機能の維持・向上、機能障害の進行予防を図り、看護部では病状に応じた専門的看護・介護を提供しています。

地域医療連携室では患者さんやご家族の相談を受けて指導・助言を行い、行政や医療・福祉機関との連絡調整を行い、安心して在宅療養・入院治療をしていただけるよう支援しています。

そのほか、薬剤科、放射線科、検査科、栄養科など、多職種と連携して、チーム医療を推進し、事務部門のバックアップとともに、最新・最良の医療サービスを提供できるよう努力しています。

これからも専門病院としての自覚を忘れず、日々の自己研鑽を忘れず、最善の医療を提供できるよう精進していきたいと思います。

50年のあゆみ

創設者 秩父政夫の「患者さんのための理想郷を作る」という強い信念から始まった当院の歴史を振り返りたいと思います。記念誌から抜粋した、ほんの一部ではありますが、当院をより一層知っていただくきっかけになれば幸いです。

昭和49年11月

阿賀野病院開設(個人立)

初代院長: **秩父政夫**

診療科目: 神経内科、一般内科

入院病床: 120床

開業医として県内で初めて
神経内科を標榜した医療機関として始動



昭和53年 1月

医療法人(社団)潤生会設立

初代理事長: 秩父 政夫

昭和59年11月

創立10周年記念式典を開催

平成 6年11月

創立20周年記念式典を開催

平成14年10月

初代理事長 兼 院長 秩父 政夫 急逝
二代目院長 近藤 崇 就任

平成15年 5月

医療法人(社団)潤生会
二代目理事長 石川 厚 就任

神経変性疾患を専門とする
医療機関へと方針転換する



平成16年11月

創立30周年記念式典を開催

時代やニーズに合わせた
病棟編成を繰り返し行った



平成18年 5月

三代目院長 石川 厚 就任

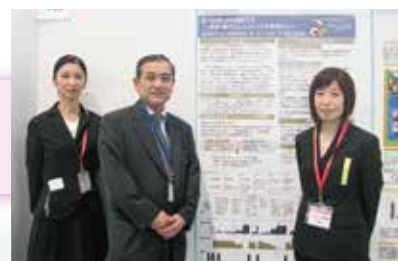
平成20年11月

「脳神経センター阿賀野病院」に病院名を変更

平成22年 4月

診療科目: リハビリテーション科 追加

各種学会にも参加し、専門職として
スキルアップを図っています



- 平成25年11月 基金拋出型医療法人に変更
三代目理事長 近藤 浩 就任
- 平成26年 4月 四代目院長 近藤 浩 就任
- 平成26年11月 **創立40周年記念式典**を開催
- 平成28年10月 第2病棟、調理室棟を新築・移転

快適な療養環境を提供すべく
改修工事を順次行った

- 令和 元年 7月 第1病棟を新築・移転
- 令和 5年 9月 管理部門(医局・職員食堂ほか)を新築・移転
- 令和 6年 6月 外来待合室・検査室・CT室・MRI室・X線撮影室を改築
- 令和 6年11月 **50周年記念碑 除幕式**
創立50周年誌 制作



Before 創立当初



昭和の外観



病室



ナースセンター



調理室



リハビリ室



受付・待合室



After 現在



平成の外観



令和の外観



病室



ナースセンター



調理室



リハビリ室



受付・待合室

外観・内装・設備・病棟種別・患者層など、この50年で当院は大きく変わりました。しかし、スタッフの「患者さんのために」という思いは変わらずこれからも持ち続けたいです



現在の病院の様子

看護実践報告会を開催しました

報告者:第1病棟主任 捧 裕子
テーマ:ACPを考える



看護部の取組み

日々の経験や実践、疑問点などを客観的に捉え、かつ言語化することで「共有できる知識」となります。実践報告での学びや気づきを全スタッフで共有し、より専門性の高い看護ケアの提供ができるように努めていきます。今回の報告では、患者さんやご家族とのコミュニケーションの重要性を再確認しました。これからも“寄り添うケア”を大切にしていきます。

リハビリ頑張っています



リハビリテーション科の紹介

【生活の質の向上を目指しています】

疾患の特性上、できない動作の訓練よりも、できていることを維持・強化するアプローチを重視しています。患者さん一人ひとりのニーズに応えるべく、スタッフそれぞれが専門性を発揮し、連携を図っています。

スタッフ紹介

／ 私たちが主治医です ／



医 局

経験豊富な脳神経科医5名の少数精鋭チームに、リハビリテーション科の工藤先生の援助も受けて、患者さんに寄り添う医療をモットーに、日々診療に当たっています。

／ 定期的に患者さんの病状や治療方針の報告・検討をしています。 ／



看護部・診療部・事務部

神経難病専門医療機関のスタッフとして専門性を高めるべく、各々が自己研鑽に努めています。チームとして協力・団結し、これからも患者さんに必要とされる病院を目指していきます。

／ 私たちが各部門の責任者です ／



季節のレシピ紹介 春



いちごの和風プリン

材料(2人分)

- いちご …… 2粒(飾り用)
- A
・こしあん… 120g
・生クリーム 100ml
・牛乳 …… 100ml
- B
・粉ゼラチン 3g
・水 …… 大さじ2
- C
・いちご … 70g(ソース用)
・砂糖 … 20g
・レモン汁… 小さじ2

1人分の栄養価 | エネルギー:406kcal たんぱく質:8.2g 脂質:23.3g
炭水化物:47.6g 食物繊維:2.6g カルシウム:98mg

今回は、いちごを使った和風のデザートを紹介します。いちごにはビタミンCが多く含まれており、抗酸化作用で皮膚や血管の老化を防いだり、ストレスや風邪に対する抵抗力を強めたりする働きがあります。また、貧血予防に必要な葉酸や眼精疲労を予防するアントシアニンなども含まれます。

新潟のブランドいちご「越後姫」は甘味が強く、果肉が柔らかくてジューシーという特徴があります。お好みの品種のいちごで春の味覚を楽しんでください。

作り方

【あんこプリン】

- ① 容器にAを入れて混ぜ合わせたものを、600wのレンジで1分加熱して人肌程度に温める。
- ② 容器にBを入れ、500wのレンジで20秒加熱する。
※ ふやかしたゼラチンをレンジで加熱するときは、沸騰しないように気を付けてください。
- ③ ①と②をよく混ぜる。
- ④ グラスに③を注いで、冷蔵庫で冷やし固める。

【イチゴソース】

- ⑤ 飾り用のいちごは半分に切る。Cのいちごは粗く刻む。
- ⑥ 深めの容器にCを入れ、600wのレンジで1分加熱し、一度取り出してよく混ぜ、再度1分加熱する。粗熱がとれたら、冷蔵庫で90分ほど冷やしておく。
- ⑦ 固まったプリンの上に、いちごソースと飾り用のいちごをのせて出来上がり。

外来のご案内 脳神経内科・内科・リハビリテーション科

受付時間 午前8時45分～11時30分(休診日 土・日・祝)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
第1診療室	近藤 浩	横関 明男	青木 賢樹	近藤 浩	佐藤 達哉
第2診療室	豊島 靖子	佐藤 達哉	★ 工藤 由理	豊島 靖子	青木 賢樹

※★印の医師は、リハビリテーション科です。
※都合により担当医が変更になることがありますので、詳細は受付までおたずねください。
※新患で受診ご希望の方はあらかじめ電話にてご予約をお願いいたします。
受診時間などを相談させていただきます。

院内レポート

2度の“最強・最長寒波”を乗り越え、心待ちにしていた春本番です。当院の桜も見頃を迎えており、患者さんと一緒にお花見を楽しみたいと思います。桜以外にも、敷地のあちこちで、タンポポやスミレなどの草花、ふきのとうやわらび、たらの芽などの山菜が春の訪れで顔を出してくれました。四季を感じられる自然環境は当院の自慢です。



医療法人潤生会 脳神経センター阿賀野病院 広報誌

うるおい

第20号
2025年4月

■発行日 2025年4月7日
■発行人 院長 近藤 浩 ■編集 広報誌事務局
〒959-2221 新潟県阿賀野市保田6317番地15
脳神経センター阿賀野病院
電話 0250-68-3500 FAX 0250-68-3690
URL <http://www.agano.or.jp> メール info@agano.or.jp

広報誌「うるおい」へのご意見・ご感想は
広報誌事務局までお寄せください。

広報誌事務局

編集後記

今回の広報誌『うるおい』は、昨年11月に迎えた創立50周年を記念して、特別号としました。例年、1月と7月に発行していますが、51年目の節目として新年度に発行してみました。周年誌に掲載した創立当時の病院施設や職員の写真を是非ご覧下さい。

50周年誌の制作時は、年月の重さや当時の諸先輩方の思いに触れることができ、とても有意義でした。何より、患者さんとそのご家族に改めて思いをはせる機会にもなりました。当院に保管されていたアルバムには多くの笑顔がありました。大変つらく、苦しい病気を患い、たくさん泣いた日々があったことでしょう。それでも笑顔を忘れず、一歩一歩つくりと前に進んでこられたすべての方々に敬意を表したいと思います。